

〔原 著〕

## COVID-19 感染予防対策と学生スポーツの大会運営に関する一考察

松尾 晋典<sup>1</sup>・西尾 明<sup>1</sup>・荒木 直彦<sup>2</sup>

### Correlation between the basketball game events and the prevention measures of infection COVID-19.

Shinsuke MATSUO, Akira NISHIO, and Naohiko ARAKI

#### Abstract

The purpose of this study was to disclose correlation between the basketball game event and the prevention measures of infection COVID-19. Holding the event of basketball games under the declaration of state of emergency in JAPAN, the organizer requires more deterministic evaluation criteria against COVID-19.

Adopted the preventive measures during primary games of intercollegiate basketball on October, 2020 based on the guidelines of JBA made no number of infected persons at all. The result could not mentioned such as the perfect management at this time, however, the result would be useful and helpful document for the event of basketball games.

#### Keywords

バスケットボール, JBA コロナガイドライン, 学生スポーツ, 大会運営  
Basketball, JBA COVID-19 Guidelines, student sports, management

## 緒 言

2020年1月に日本で初の感染者が確認された新型コロナウイルス (COVID-19) の感染拡大は着々と進行し, 2020年4月7日に東京をはじめとする7都道府県に緊急事態宣言が発令され, 不要不急の外出自粛など, 私たちは制限のある生活を余儀なくされた。

その影響は教育現場にも容赦なく襲い掛かり, 3月には卒業式や入学式の縮小開催や中止を決定, 緊急事態宣言の発令により新学期の授業開始時期の延期あるいは遠隔授業の導入を決定する大

学が相次いだ。さらに, 学園祭やスポーツ大会はもとより, 課外活動である運動部活動やサークル活動の活動自粛や縮小を決定する大学が徐々に増え始めていった。

新入生や新学期を迎えた在学学生は, コロナ過の学生生活に大きな不安を抱えており<sup>1)</sup>, 各大学における学生サポートを含む対策を検討する上で, 新型コロナウイルス感染拡大が学生生活に与える影響の現状を把握する必要がある<sup>2)</sup>。

一方, スポーツ界でも多大な影響を受けることになった。東京2020オリンピック・パラリンピックの開催延期をはじめ, 全てのプロ・アマスポー

<sup>1</sup> 広島文化学園大学人間健康学部 (Faculty of Human Health Science, Hiroshima Bunka Gakuen University)

<sup>2</sup> 倉敷芸術科学大学生命科学部 (Faculty of Life Science, Kurashiki University of Science and the Arts)

ッ関係者に甚大な混乱と失意をもたらした。国内のバスケットボール活動への影響を振り返ってみると、U12&U15全国大会（2020年3月）インターハイ（2020年8月）、国民体育大会（2020年10月）が中止となり、WリーグやB.LEAGUEは全試合中止を発表してプレーオフも行われないうまま19-20シーズンは幕を下ろした。

これらの状況を踏まえて、中国大学バスケットボール連盟（以下、中国大学連盟）は、当連盟主催する大会開催の有無を含めた大会運営の検討をしなければならなかった。

そこで本研究は、新型コロナウイルス感染拡大の渦中に中国大学連盟が大会開催を決定した判断基準や、大会に講じた感染症予防対策の詳細を明らかにすることを目的とした。これらのことを明らかにすることで、各種の学生スポーツ組織において検討される大会開催の判断基準や大会の運営準備を考える上での有用な資料の一助になるものと考えた。

## 連盟主催大会の開催に対する検討

世界保健機関（WHO）は、2020年1月30日に、新型コロナウイルス感染症に対して、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」を宣言し、世界的な感染拡大の状況から3月11日に新型コロナウイルスをパンデミック（世界的な大流行）とみなせると表明した。日本においても緊急事態宣言が発令され、個人でも不要不急の外出を控える動きが強まっており、経済活動も大きく制約されるようになった<sup>3)</sup>。一方で、大学バスケットボールの全国的な動向としては、各地区大学連盟が主催する選手権大会や新人大会、また李宗伯杯争奪日韓学生バスケットボール競技大会や西日本学生バスケットボール選手権大会も中止の方向で検討されていた。

中国大学連盟は主催大会の開催を検討するため、他地区の大会開催状況や中国地区大学の活動状況の情報を集め、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みた大会運営について理事会で議論し

た。大室ら<sup>4)</sup>は、このような状況下において考えなければならないことは、まずは安全に実施することである。人が関わる以上、危険性が高い状況は避けなければならないと報告している。中国大学連盟としても安全の確保のためには、正しい情報を得たうえで、現状に当てはめた対策を考える必要があった。5月に開催が予定されていた選手権大会は中止という判断をせざるを得なかったが、7月に開催が予定されていた新人大会は、選手の意欲等を配慮して中止ではなく延期とした。選手権大会の中止および新人大会の延期の理由は、「施設の使用許諾が得られない」「JBAが示した指針（6/8付）をクリアする人員や環境を確保できない」「練習が十分ではなく怪我や熱中症の恐れがある」など、先行研究<sup>5)</sup>を支持するものであった。

## 実践報告：新型コロナウイルス感染症予防対策プレ大会

岡山県岡山市において、令和2年7月18日と19日の二日間で「2020年度 新型コロナウイルス感染症予防対策プレ大会」（以下、プレ大会）を開催した。各県バスケットボール総合選手権大会（8月下旬）ならびに全日本大学バスケットボール選手権大会中国地区予選会（9月下旬）の開催が予定されていることから、コロナ禍の大会運営における基礎的データを得る事を目的として、3つのカテゴリー（高体連・大学連盟・社会人連盟）が同会場で試合を行う運営方法（観客動員あり）を選択した。また、試合日程を4部制に分け（両日ともに午前と午後の部）、その都度、人員の総入れ替えを行った。

### 1. 大会会場

大会会場は、ジップアリーナ岡山（岡山県岡山市）を使用した。なお、この大会会場の収容人数は、約11,000人（固定席：2,528席、移動席：2,556席、バスケットボールコート4面：4,535㎡）であった。

## 2. 大会参加者

大会参加チームは、T高校男子チーム、G大学男子チーム、S大学男子チーム、社会人T男子チーム、G大学女子チーム、社会人A女子チームの6チームであった。

表1に新型コロナウイルス感染症予防対策プレ大会における参加者の詳細を示した。なお、運営スタッフは、審判員・医療従事者・受付・TO・大学連盟役員の総人数とする。

## 3. 新型コロナウイルス感染症の対策

### 1) 大会開催までの感染予防対策（事前確認）

- ①本人に活動（参加）の意思があること
- ②直近2週間で健康状態に異常がなく、体調や体温測定に変調がない
- ③体調が良くない場合は、自主的に大会参加を見合わせる
- ④同居家族や身近な人に感染が疑われる方がいる場合は、自主的に大会参加を見合わせる
- ⑤過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航または当該在住者との濃厚接触がある場合は、自主的に大会参加を見合わせる

### 2) 大会中における感染予防対策

＜大会会場内＞

- ①フロア入り口に受付（飛沫感染防止シールドを

表. 1 新型コロナウイルス感染症予防対策プレ大会における参加者の詳細

日時	スタッフ・選手	運営スタッフ	観客	会場総人数
7/18(午前)	77人	12人	21人	110人
7/18(午後)	96人	28人	17人	134人
7/19(午前)	100人	16人	52人	168人
7/19(午後)	75人	20人	24人	119人



写真. 1 受付（エントリー・検温・問診）

含む）を配置し、入場者全員の名前を確認後に検温と問診を行った（図. 1）

- ②選手以外の入場者に腕章（リストバンド）を配布した
  - ③チームスタッフおよび選手は、室内シューズの靴底を消毒してからフロアに入る
  - ④3密を考慮したうえで更衣室を使用し、更衣後の荷物は観客席で保管させた
  - ⑤フロア内に運営スタッフスペース、審判控え室を別室に配置した
  - ⑥互いにすれ違わない環境を造るため、「チーム」「運営スタッフおよび審判員」「観客」の動線を分けた
  - ⑦各チームの荷物保管場所として活用した
  - ⑧チーム関係者以外についても受付での検温と問診を済ませた観客のみを入場可とした
- ＜ベンチエリア＞

- ①互い違いにベンチを配置し、スタッフとのエリアを区分した（図. 2）
- ②TO席に飛沫感染防止シールドを設置した（図. TOシールド）
- ③TOスタッフ（モップラー含む）は、ゴム手袋の着用を義務付けた（図. 3）



写真. 2 ベンチ状況（互い違いに配置）



写真. 3 TOエリア（飛沫感染防止シールド）

- ④ベンチスタッフはマスク着用，ベンチエリアの選手はマスク不着用とした
  - ⑤審判員用および交代選手用のブースを作り，消毒用品を設置した
- ＜試合中＞
- ①選手交代毎に，交代選手ブースでの消毒を徹底させた
  - ②クォーター間を5分とし，試合に出場していた選手の消毒を徹底させた
  - ③ハーフタイムを15分とし，試合に出場していた選手の消毒を徹底させた
  - ④ハーフタイム中は，フロアへの他チームの入場を不可とした（ハーフタイムアップなし）
  - ⑤試合終了後は，ベンチエリア（椅子等）とTO席の消毒を徹底させた
  - ⑥審判のサインは，審判控え室にて行った

### 3) 大会終了後の感染拡大防止対策（事後調査）

事後の健康状態の確認として，大会に参加したチームの代表者は，大会終了後3日以内および14日以内に具合の悪い選手やスタッフがいないかの確認を行い，大会感染対策責任者に報告することとした。

### 4) 感染拡大防止対策の集計結果

参加チームのスタッフと選手および観客，レフェリー，医療スタッフ，大会運営スタッフ等の参加者全員に対して，大会終了時より14日間の体調を確認した結果，体温・体調の異変がないことが確認され，新型コロナウイルス感染症の感染者数は0人であった。

## 第72回全日本大学バスケットボール選手権大会中国地区予選会に対する検討

7月に行われた全日本大学バスケットボール連盟理事長会議により，第72回全日本大学バスケットボール選手権大会（以下：インカレ）の開催が決定したため，中国大学連盟としてはインカレに出場する代表チームを決定する中国地区予選会を

開催せざるを得なくなった。

中国大学連盟は，インカレ中国地区予選会の開催を検討するために新型コロナウイルス感染症に関わる情報収集を継続し，感染症拡大予防対策を加味した大会運営について理事会での検討を重ねた。新型コロナウイルスに対するワクチンや治療薬開発が進んではいたが，大会開催の有無を判断する2020年8月時点で，一般的に広く投与できるものは開発されていなかった<sup>6)</sup>。表2に各地区大学バスケットボール連盟における2020年度主催大会の実施を示し，表3に中国地区の各大学競技連盟における2020年度主催大会の実施を示した。各地区の大学連盟は，8・9月に開催を予定していたインカレ地区予選会を延期，または中止による代替案の措置を講じており，中国地区の各大学競技連盟においては，バレーボールや柔道など室内競技大会の中止が発表された<sup>7)</sup>。

新型コロナウイルス感染症の影響により社会情勢が変化するなかで，中国大学連盟は，厚生労働省・日本スポーツ協会・日本バスケットボール協会が定めた新型コロナウイルス感染症に関する活動ガイドラインを参考にして「新型コロナウイルス感染症予防対策プレ大会」を7月に開催した。この大会において得られた現場レベルの知見を参考に加えて，インカレ中国地区予選会の開催を決定した。中国地区代表枠は男女ともに2枠であるため，準決勝戦の終了時点で大会を終了させる（決勝戦と3位決定を行わない）大会日程を採用した。理事会において決定した大会の決定事項を下記に示す。

- ・大会日程は2日間（宿泊を伴わない）
- ・1部と2部の大会を別日程にする
- ・トーナメント戦の採用
- ・順位決定（1, 2位）は抽選で決定させる
- ・1部2部入替戦は行わない
- ・2020年度の順位を2021年度に反映させない
- ・1部大会と同条件で2部大会を行う

検討課題についての判断材料が少ない状況では

表. 2 各地区大学バスケットボール連盟における2020年度主催大会の実施

連盟	日程	大会名
北海道大学連盟	中止	第70回北海道大学バスケットボール春季選手権大会
	10/24 ~	男子72回・女子64回北海道大学バスケットボール選手権大会
東北大学連盟	中止 (5月)	第41回北奥羽地区大学春季バスケットボール大会
	中止 (5月)	第41回南奥羽地区大学春季バスケットボール大会
	中止 (6月)	令和2年東北地区大学体育大会
	10/23 ~	第21回東北大学バスケットボールリーグ
北信越大学連盟	中止 (5月)	第54回笹本杯争奪北信越大学バスケットボール春季リーグ戦
	10/10 ~	第54回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選
関東男子大学連盟	中止 (5月)	第69回関東大学バスケットボール選手権大会
	中止 (9月)	第96回関東大学バスケットボールリーグ戦
	10/10 ~	オートムカップ2020 (代替)
関東女子大学連盟	中止 (5月)	第69回関東大学バスケットボール選手権大会
	中止 (9月)	2020年度関西女子学生バスケットボールリーグ戦
	10/3 ~	2020年度関西女子学生バスケットボール交流大会 (代替)
東海学生連盟	中止 (4月)	第58回東海学生バスケットボール大会
	10/11 ~	2020年度東海学生バスケットボール秋季大会
関西男子学生連盟	中止 (4月)	第47回関西学生バスケットボール選手権大会
	9/5 ~	2020年度関西学生バスケットボールリーグ戦
関西女子学生連盟	中止 (4月)	第41回全関西女子学生バスケットボール選手権大会
	中止 (9月)	2020年度関西女子学生バスケットボールリーグ戦
	10/3 ~	2020年度関西女子学生バスケットボール交流大会 (代替)
中国大学連盟	中止 (5月)	第46回中国大学バスケットボール選手権春季優勝大会
	9/26 ~	第72回全日本大学バスケットボール選手権大会中国地区予選会
	11/21 ~	第12回中国大学バスケットボール新人大会
全四国大学連盟	中止 (6月)	第71回四国地区大学総合体育大会
	10/17・18	第72回全日本大学バスケットボール選手権大会四国地区予選会
九州大学連盟	中止 (5月)	第25回全九州大学春季バスケットボール選手権大会
	9/18 ~	第27回全九州大学バスケットボールリーグ戦

表. 3 中国地区の各大学競技連盟における2020年度主催大会の実施

連盟	日程	大会名
大学野球連盟	中止 (4月)	中国六大学野球春季リーグ戦
	中止 (6月)	中国地区大学野球新人戦
	9/5 ~	中国六大学野球秋季リーグ戦
大学サッカー連盟	中止 (4月)	中国大学サッカーリーグ (春季)
	9/5 ~	Iリーグ中国2020
	9/9 ~	中国大学サッカー新人戦
	9/13 ~	中国大学サッカー選手権 (延期)
	10/4 ~	中国大学サッカーリーグ (秋季)
大学バレーボール連盟	中止 (4月)	中国大学バレーボールリーグ戦春季大会
	中止 (5月)	中国四国学生バレーボール選手権大会
	中止 (10月)	中国大学バレーボールリーグ戦秋季大会
	10/3 ~	中国大学バレーボール交流戦 (代替)
大学バドミントン連盟	中止 (4月)	中四国学生バドミントンリーグ戦
	中止 (8月)	中国学生バドミントン選手権大会
	12/15 ~	中四国学生バドミントン選手権大会 (延期)
大学卓球連盟	中止 (5月)	中国学生卓球選手権春季大会
	中止 (8月)	中国学生卓球選手権秋季大会
	12/5・6	中国新人学生卓球選手権大会
大学剣道連盟	中止 (5月)	中四国学生剣道選手権大会
	中止 (8月)	中四国学生剣道優勝大会
	中止 (11月)	中四国学生剣道新人大会
大学柔道連盟	中止 (5月)	中国四国学生柔道優勝大会・女子柔道優勝大会
	中止 (8月)	中国四国学生体重別選手権大会

あったが、理事会においては宿泊を伴わない大会日程、対戦方式の変更、試合数の縮小、無観客試合など、「3密回避」の面から、学生の安全確保を最優先に考えた大会運営を採用した。

## 実践報告：中国地区1部予選大会

岡山県倉敷市において、令和2年9月26日と27日の二日間で「第72回全日本大学バスケットボール選手権大会中国地区1部予選会1部大会」（以下、インカレ予選1部大会）を開催した。第72回全日本大学バスケットボール選手権大会に中国地区代表として推薦する男女2チームを決定するためだけに特化した大会運営を採用した。

### 1. 大会会場

大会会場は、水島緑地福田公園体育館（岡山県倉敷市）を使用した。なお、この大会会場の収容人数は、約6,000人（固定数：1,958席、移動席：2,200席、身障者席20席、バスケットボールコート3面：5,773㎡）であった。

### 2. 大会参加者

大会参加チームは、2020年度中国大学バスケットボール連盟1部リーグに所属する男女14チーム（男子8チーム、女子6チーム）であった。

表4に第72回全日本大学バスケットボール選手権大会中国地区1部予選大会の参加者数を示した。なお、運営スタッフは、受付・TO・大学連盟役員の総人数とする。

### 3. 新型コロナウイルス感染症の対策

2020年5月に厚生労働省<sup>8)9)</sup>や日本スポーツ協会が発表した新型コロナウイルス感染症の感染予防対策<sup>10)</sup>と、日本バスケットボール協会が定めた新型コロナウイルス感染症に関するバスケットボール活動再開ガイドライン策定<sup>11)</sup>を参考にして、「感染予防対策下の大会運営ガイドライン」および「健康チェックシート」(表5)を作成した。

#### 1) 大会開催までの感染予防対策（事前確認）

- ①本人に活動（参加）の意思があること
- ②大会参加に関する保護者の承諾（未成年者のみ）

表. 4 第72回全日本大学バスケットボール選手権大会中国地区予選1部大会の参加者数

	チームスタッフ		選手		運営スタッフ	
	9/26	9/27	9/26	9/27	9/26	9/27
男子A大学	5人	5人	15人	15人	2人	2人
男子B大学	7人	7人	15人	15人	2人	2人
男子C大学	5人	5人	15人	15人	2人	2人
男子D大学	2人	2人	15人	15人	2人	2人
男子E大学	7人		15人		2人	
男子F大学	7人		15人		2人	
男子G大学	7人		15人		2人	
男子H大学	6人		15人		2人	
女子a大学		4人		15人		2人
女子b大学	6人	6人	12人	12人	2人	2人
女子c大学		7人		15人		2人
女子d大学	7人		15人		2人	
女子e大学	5人	5人	15人	15人	2人	2人
女子f大学	5人		8人		2人	
審判員					15人	12人
運営スタッフ					14人	14人
合計	69人	41人	170人	117人	53人	42人
9/26参加者総数	292人					
9/27参加者総数	200人					

表. 5 健康チェックシート

※参加チーム用

健康チェックシート	
<p>本健康チェックシートは、中国大学バスケットボール連盟が主催する各種大会において新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、大会参加者の健康状態の確認を目的としています。</p> <p>本健康チェックシートに記入いただいた個人情報について、中国大学バスケットボール連盟は、厳正なる管理のもとに保管し、チーム関係者の健康状態の把握、来場可否の判断および必要なご連絡のために利用します。また、個人情報保護法等の法令において認められる場合を除き、ご本人の同意を得ずに第三者に提供いたしません。但し、大会会場にて感染症患者またはその疑いのある方が発見された場合に必要な範囲で保健所等に提供することがあります。</p>	

チーム名		代表者連絡先	
フリガナ		生年月日	西暦 年 月 日
氏名		電話番号	
		E-mail	
住所	〒		

日付	起床時体温	日付	起床時体温	日付	起床時体温	日付	起床時体温
/ ( )	℃	/ ( )	℃	/ ( )	℃	/ ( )	℃
/ ( )	℃	/ ( )	℃	/ ( )	℃	/ ( )	℃
/ ( )	℃	/ ( )	℃	/ ( )	℃	/ ( )	℃
/ ( )	℃	/ ( )	℃	/ ( )	℃	/ ( )	℃

チェック項目	チェック欄
①平熱を超える発熱がない	
②咳（せき）、のどの痛みなどの 風邪症状がない	
③だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）がない	
④臭覚や味覚の異常がない	
⑤体が重く感じる、疲れやすい等がない	
⑥新型コロナウイルス感染症養成とされた者との濃厚接触がない	
⑦同居家族や身近な知人に感染を疑われる方がいない	
⑧過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間が必要とされている国、地域等への渡航または当該在住者との濃厚接触がない	
⑨その他、気になること（以下自由記述）	

(大会参加者が未成年の場合) 保護者 確認欄			
保護者氏名		確認日	西暦 年 月 日
電話番号		E-mail	

- ③直近2週間で健康状態に異常がなく、体調や体温測定に変調がないこと
- ④大会参加者全員に健康チェックシートを記録させ、大会当日エントリー時に大会本部へ提出すること
- ⑤咳エチケット、手洗い、うがい、消毒の徹底を各チームで指導すること
- ⑥当日、発熱、のどの痛み、咳、倦怠感など、風邪と考えられる症状がある場合は参加を取りやめること
- ⑦風邪薬や解熱剤を服用しての参加は厳重に禁止とする
- ⑧会場利用が済めば、速やかに帰宅する（利用前後の滞在時間を短くする）こと
- ⑨クラブ指導者（部長・監督・コーチ・トレーナー）の指導や管理事項を遵守すること
- ⑩大会に参加する上で、公益財団法人日本バスケットボール協会（JBA）が示す「活動再開に向けたガイドライン」または、中国大学バスケットボール連盟が示す注意事項を遵守すること

## 2) 大会中における感染予防対策

### ＜体調管理に関する事項＞

- ①毎日の健康観察を記録すること
- ②来場する者（大会関係者含む）の健康チェックシートを提出すること
- ③体調不良や発熱のある者は会場に入らないこと
- ④マスクの着用やソーシャルディスタンス確保の徹底、基本的な衛生エチケットを遵守すること
- ⑤各チームの選手やスタッフは、試合とアップ時間以外はマスクを着用すること

### ＜大会会場の使用に関する事項＞

- ①無観客試合とし、入館するチーム関係者（スタッフ・選手）の人数を制限する
- ②会場入り口において検温を実施する（原則として37.0℃以上の入場制限）
- ③更衣室の使用は、密集を避けて交替で使用する
- ④室内換気（扉の開放およびエアコンの稼働）を徹底する
- ⑤体育館に設置されている冷水器および製氷機の使用は禁止する

使用は禁止する

- ⑥会場での食事は、原則として禁止する
- ⑦手指消毒液など、試合やアップ場で広く使用できるように準備し、参加者／選手、コーチ審判は頻繁に手洗を実施する

### ＜試合に関する事項＞

- ①1日1試合とし、試合の間隔を空ける
- ②前試合のハーフタイム時のコートアップを禁止する
- ③ベンチを2列にして、会場施設の許す範囲内で密を防ぐ対策を行う
- ④試合開始直前の審判員および相手チームとの握手を行わない
- ⑤自チームでもハイタッチ、肩を組む、握手などの身体接触を避ける
- ⑥飲料の共有およびボトルの共用を禁止する
- ⑦定期的に接触場所（会場入口扉、受付エリア、更衣室など）の消毒を徹底する
- ⑧各試合終了後、試合で使用したチームベンチの消毒を済ませ、速やかに退館する
- ⑨TOやCKは、TO器具やモップ等の消毒を行う
- ⑩審判は、笛の代わりとして電子ホイッスルの使用を可とする

## 3) 大会終了後の感染拡大防止対策

### ＜健康チェックリストの保管＞

大会感染対策責任者は、健康チェックシートの保存期間（少なくとも1ヶ月）を明記した上で保存すること

### ＜事後の健康状態の確認＞

大会に参加したチームの代表者は、大会終了後3日以内に具合の悪い選手やスタッフがいなかを確認して、大会感染対策責任者に報告すること

### ＜感染が判明した場合の対応＞

運営スタッフ及びチームから大会終了後14日以内に新型コロナウイルス感染症の感染が判明した場合は、保健所の指示に従うとともに、大会感染対策責任者にその旨を報告すること

#### 4) 会場における感染対策

##### <諸室等>

- ①各部屋にアルコール消毒液を設置する
- ②すべてのドア及び窓を開け、3つの密が発生する環境を阻止し、ドアノブを介した接触感染を防ぐ
- ③ドリンクを冷やすためのアイスボックス、イベントクーラーは使用しない
- ④座席を設置する際に前後左右1.5～2m間隔をあけ、お互いが正面に座らないよう配慮する

##### ⑤喫煙所は設けない

##### <手洗い場所>

- ①手洗い場には、ポンプ型の液体または泡石鹸を用意する
- ②「手洗いは30秒以上」等の掲示をする
- ③手洗い後に手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を用意する（布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないこと）
- ④アルコール消毒液を設置する

##### <トイレ>

- ①便器の蓋を閉めて汚物を流すよう表示する
- ②手洗い場にはポンプ式液体または泡石鹸を用意する
- ③「手洗いは30秒以上」等の掲示をする
- ④手洗い後に手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を用意する（布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないこと）

##### ⑤アルコール消毒液を設置する

##### <更衣室・ロッカールーム>

- ①広さにゆとりを持たせ、選手同士が密になることを避ける
- ②ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する利用者の数を制限する、別室を用意するなどの措置を講じる
- ③室内またはスペース内で複数の利用者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、椅子等）については消毒する
- ④換気扇を常に回す、2つ以上のドア、窓を常時開放して換気を行う

##### <ゴミの廃棄方法>

- ①会場等で発生したゴミを収集する際は、マスクや手袋を必ず着用する
- ②ゴミはビニール袋に入れて密閉して縛り、廃棄する
- ③マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒をする

#### 5) 感染拡大防止対策の集計結果

参加チームスタッフと選手および審判員、大会運営スタッフ等の参加者全員に対して、大会終了時より14日間の体調を確認した結果、体温・体調の異変がないことが確認され、新型コロナウイルス感染症の感染者数は0人であった。

#### 実践報告：中国地区2部予選大会

広島県呉市において、令和2年10月17日と18日の二日間で「第72回全日本大学バスケットボール選手権大会中国地区予選2部大会」（以下、インカレ予選2部大会）を開催した。9月に行われたインカレ予選1部大会と同様の試合日程（2日間）および対戦方式（トーナメント戦）を採用した。

##### 1. 大会会場

大会会場は、シシンヨーオークアリーナ（広島県呉市）を使用した。なお、この大会会場の収容人数は、約3,800人（固定席：940席、移動席：972席、身障者席10席、バスケットボールコート4面：3,091㎡）であった。

##### 2. 大会参加者

大会参加チームは、2020年度中国大学バスケットボール連盟2部リーグに所属する男女13チーム（男子7チーム、女子6チーム）であった。

表6に第72回全日本大学バスケットボール選手権大会中国地区2部予選大会の詳細を示した。なお、運営スタッフは、審判員・医療従事者・受付・TO・大学連盟役員の総人数とする。

表. 6 第72回全日本大学バスケットボール選手権大会中国地区予選2部大会の参加者数

	チームスタッフ		選手		運営スタッフ	
	10/17	10/18	10/17	10/18	10/17	10/18
男子I大学	7人	7人	15人	14人	2人	2人
男子J大学	7人		9人		2人	
男子K大学	1人	1人	10人	10人	2人	2人
男子L大学	3人	3人	15人	15人	2人	2人
男子M大学	4人	4人	11人	11人	2人	2人
男子N大学	3人	3人	8人	8人	2人	2人
男子O大学	7人	7人	15人	15人	2人	2人
女子g大学	3人	3人	15人	15人	2人	2人
女子h大学	5人	5人	8人	8人	2人	2人
女子i大学	2人	2人	6人	6人	2人	2人
女子j大学	3人	3人	9人	9人	2人	2人
女子k大学	4人	4人	15人	15人	2人	2人
審判員					10人	10人
運営スタッフ					12人	12人
合計	49人	42人	136人	126人	46人	44人
10/17参加者総数	231人					
10/18参加者総数	212人					

### 3. 新型コロナウイルス感染症の対策

令和2年9月26・27日に岡山県倉敷市で行われたインカレ予選1部大会と同様の感染症拡大防止対策を講じた。

### 4. 感染拡大防止対策の集計結果

参加チームスタッフと選手および審判員、大会運営スタッフ等の参加者全員に対して、大会終了時より14日間の体調を確認した結果、体温・体調の異変がないことが確認され、新型コロナウイルス感染症の感染者数は0人であった。

## アンケート調査方法

### 1. 調査対象

中国大学バスケットボール連盟に所属し、第72回全日本大学バスケットボール選手権大会中国地区予選会に参加した38チームの学生スタッフおよび選手（422名）を対象とした。

### 2. 調査方法と調査時期

Googleフォームを用いたWEBアンケート調査を実施した。調査は、中国大学連盟事務局より対象チーム代表者に配信するとともに、各チーム代

表者からチームスタッフおよび選手に拡散して回答に協力してもらうよう依頼した。

調査期間は、2020年10月19日（月）～12月19日（土）とした。

### 3. 調査項目と分析方法

大家ら（2004）の先行研究を参考にアンケート用紙を作成した。調査は以下の19項目とした。

- 1) 大会開催時期の設定について
- 2) 大会エントリー期間と締切日の設定について
- 3) 大会開催地の設定および大会会場の施設や設備について
- 4) 大会参加料の設定について
- 5) 特別審判料の設定について
- 6) 大会期間中および1日あたりの試合数の設定について
- 7) テーブルオフィシャルズの設定について
- 8) 中国大学連盟が運営しているホームページとTwitterの分かりやすさについて
- 9) 大会エントリー資料のダウンロードについて
- 10) 新型コロナウイルス感染拡大予防対策の事前手続きについて
- 11) 大会期間中の新型コロナウイルス感染拡大予防対策について

- 12) 大会期間中の新型コロナウイルス感染拡大予防対策スタッフの対応について
  - 13) 学生エントリースタッフの対応について
  - 14) 公認審判員の判定および対応について
  - 15) 中国大学連盟事務局の対応について
  - 16) 中国大学連盟理事の対応について
  - 17) 自分以外の参加学生のマナーについて（他者評価）
  - 18) 自分の参加マナーについて（自己評価）
  - 19) 当大学連盟や運営役員への要望（自由記述）
- 1)～18)については、非常に満足、やや満足、どちらとも言えない、やや不満、非常に不満の5段階評価で調査し、19)は自由記述での調査を行った。なお、単純集計では、各項目を度数および%で示した。

#### 4. 調査回答

調査回答者は200名（有効回答率47.4%）であった。

### アンケート調査結果

#### 1. 大会開催の設定に関する調査

大会開催時期の設定（図. 1）について満足と回答した学生は65.5%（131名）と全体の約2/3を示しており、不満と回答した学生は全体の8.5%（17名）であった。

大会エントリー期間と締切日の設定（図. 2）について満足と回答した学生は全体の55%（110名）と過半数を超えており、不満と回答した学生は全体の3.5%（7名）であった。

#### 2. 大会運営に関する調査

大会開催地の設定および大会会場の施設や設備（図. 3）について満足と回答した学生は71%（142名）と全体の2/3を超える割合を示しており、不満と回答した学生は全体の6.5%（13名）であった。

大会参加料の設定（図. 4）について満足と回答した学生は全体の46.5%（93名）であり、不満と回答した学生は全体の6.5%（13名）であった。

特別審判料の設定（図. 5）について満足と回答した学生は全体の39.7%（79名）であり、不満と回答した学生は全体の8.5%（17名）であった。

大会期間中および1日あたりの試合数の設定（図. 6）について満足と回答した学生は67%（134名）と全体の約2/3を示しており、不満と回答した学生は全体の11%（22名）と高い数値を示した。

テーブルオフィシャルズの設定（図. 7）について満足と回答した学生は70.4%（140名）と全体の2/3を超える割合を示しており、不満と回答した学生は全体の3.5%（7名）であった。

中国大学連盟が運営しているホームページとTwitterの分かりやすさ（図. 8）について満足と回答した学生は全体の46.7%（93名）であり、不満と回答した学生は全体の14.1%（28名）と高い数値を示した。

大会エントリー資料のダウンロード（図. 9）について満足と回答した学生は全体の54.1%（107名）と過半数を超えており、不満と回答した学生は全体の5%（10名）であった。

#### 3. 感染症拡大予防対策に関する調査

新型コロナウイルス感染拡大予防対策の事前手続き（図. 10）について満足と回答した学生は71.5%（143名）と全体の2/3を超える値を示しており、不満と回答した学生は全体の4%（8名）であった。

大会期間中の新型コロナウイルス感染拡大予防対策（図. 11）について満足と回答した学生は66.6%（132名）と全体の2/3の値を示しており、不満と回答した学生は全体の6.6%（13名）であった。

大会期間中の新型コロナウイルス感染拡大予防対策スタッフの対応（図. 12）について満足と回答した学生は71.2%（141名）と全体の2/3を超える値を示しており、不満と回答した学生は全体の3%（6名）であった。

#### 4. 大会運営スタッフの対応に関する調査

学生エントリースタッフの対応（図. 13）につ

いて満足と回答した学生は67.5%（135名）と全体の約2/3の値を示しており、不満と回答した学生は全体の2.5%（5名）であった。

公認審判員の判定および対応（図. 14）について満足と回答した学生は52%（104名）と全体の過半数を超える値を示しており、不満と回答した学生は全体の14.5%（29名）であった。

中国大学連盟事務局の対応の対応（図. 15）について満足と回答した学生は61.3%（122名）と全体の過半数を超える値を示しており、不満と回答した学生は全体の1%（2名）であった。

中国大学連盟理事の対応（図. 16）について満足と回答した学生は61.3%（122名）と全体の過半数を超える値を示しており、不満と回答した学生は全体の2%（4名）であった。

## 5. マナーに関する調査

自分以外の参加学生のマナー（図. 17）について満足と回答した学生は64.7%（129名）と全体の約2/3の値を示しており、不満と回答した学生は全体の6.5%（13名）であった。

自分の参加マナー（図. 18）について満足と回答した学生は76.4%（152名）と全体の3/4を上回る値を示しており、不満と回答した学生は全体の1.5%（3名）であった。

## おわりに

本稿では、新型コロナウイルス感染拡大の渦中に中国大学連盟が大会開催を決定した判断基準や、大会に講じた感染症予防対策の詳細を明らかにすることを目的とした。

コロナウイルス感染症予防対策については、ブレ大会を開催して感染予防対策を事前に試行できたこと、ブレ大会時の課題として取り上げられた「3密の回避」に対して、インカレ予選大会開催までに改善策を検討して徹底できたことが、結果的に各大会期間中の感染者数0人へ繋がったことが考えられた。何よりも、ブレ大会を含む3大会で感染者数が0人という結果で大会を終えること

ができたことが、運営サイドとしては一番嬉しい結果であった。

アンケート調査と自由記述については「大会を開催してくれて感謝している」「充実した試合ができた」など、自由記述の大半が肯定的な意見であったことから、大会開催への判断が間違いではなかったことが認識できた。しかし、その一方で、1日あたりの試合数（11%：22名）、中国大学連盟が運営しているホームページとTwitterの分かりやすさ（14.1%：28名）、公認審判員の判定（14.5%：29名）について、10%を超える不満があることが示された。

1日あたりの試合数については、「リーグ戦（2試合以上）をしたうえで順位を決めたい」、「決勝戦はするべきだった」、「試合数を増やしてほしい」など、自由記述にも試合数に関する要望が記載されていたことから、再検討すべき項目であることが確認できた。

中国大学連盟が運営しているホームページとTwitterの分かりやすさについては、ホームページおよびTwitter運用を根本から見直し、原因の究明を進めている。SNSの運用には学生運営スタッフを関与させ、学生の意見を反映したシステムを再構築している。

公認審判員の判定については、中国大学連盟からの依頼通り、すべての試合をスリーパーソン（B級審判員以上：3名）で対応している。判定に対する捉え方が人それぞれ違うので一概には言えないが、調査結果を審判委員会に伝え、共に高め合えるような関係を構築していきたい。

10%以下の調査項目に対しても、連盟に届いた意見や要望として再検討すべき内容と捉えている。大会に参加するチームスタッフや選手はもちろんのこと、OB・OGをはじめとする学生バスケットボールファンの声を集約して評価することで、はじめて課題点が見えてくる。課題点を真摯に受け止めて改善に努めることが、「学生のための大会」の実現に近づくためのひとつの要因と考える。

コーチの制御戦略について「コーチがアスリー

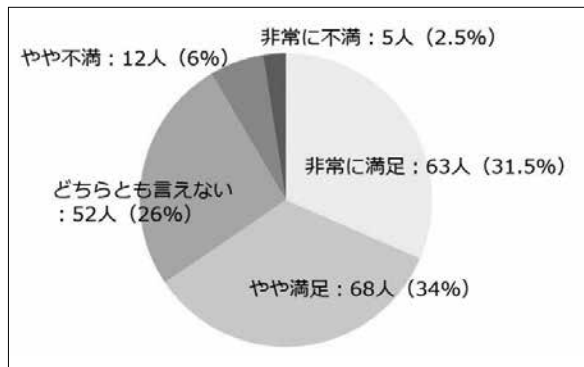


図. 1 大会開催時期の設定 (n=200)

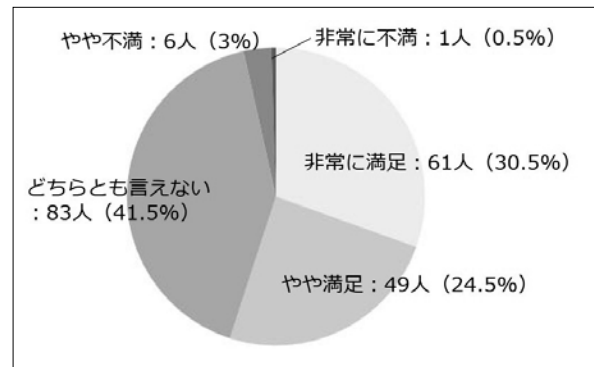


図. 2 大会エントリー期間と締切日の設定 (n=200)

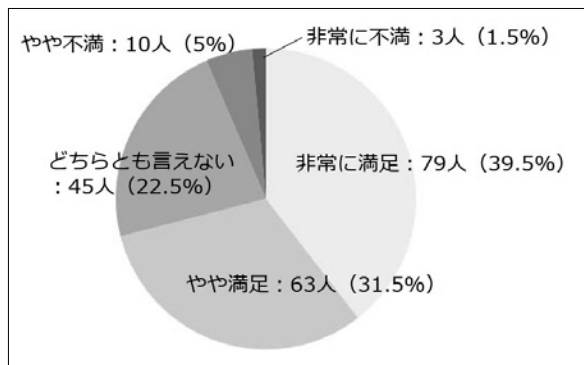


図. 3 大会開催地の設定および大会会場の施設や設備 (n=200)

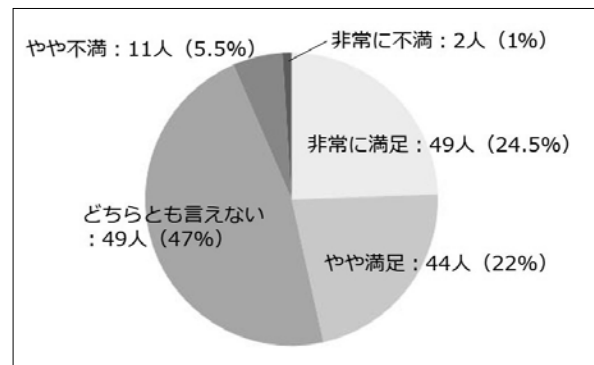


図. 4 大会参加料の設定 (n=200)

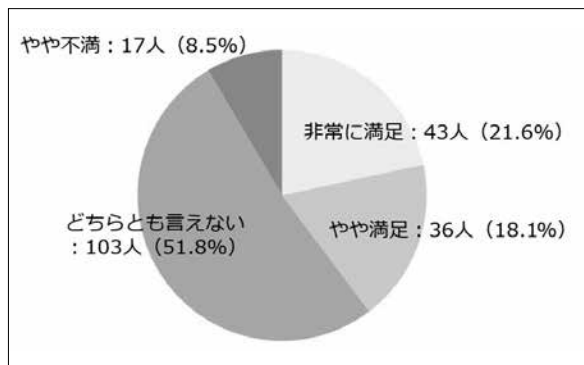


図. 5 特別審判料の設定 (n=200)

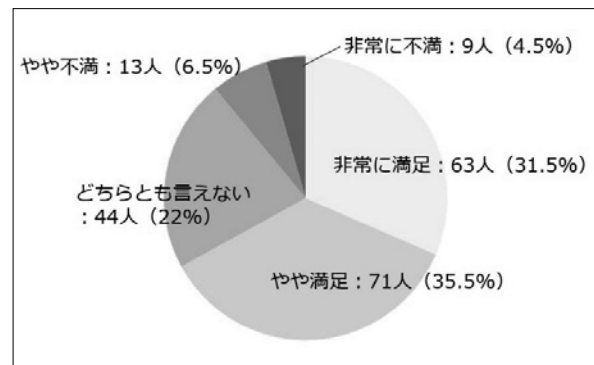


図. 6 大会期間中および1日あたりの試合数の設定 (n=200)

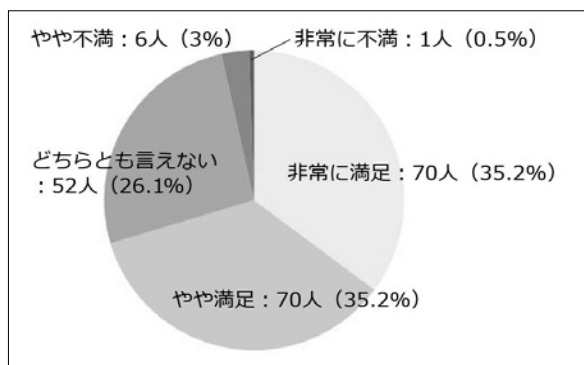


図. 7 テーブルオフィシャルズの設定 (n=200)

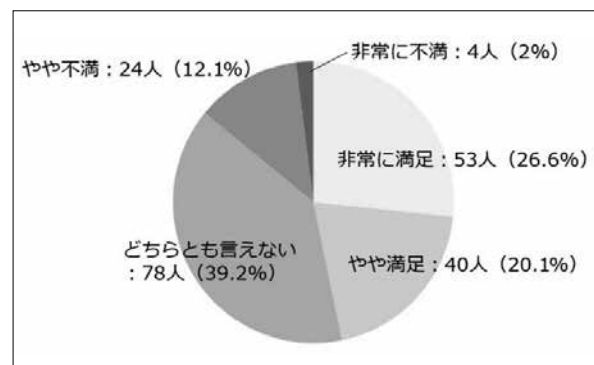


図. 8 中国大学連盟が運営しているホームページとTwitterの分かりやすさ (n=200)

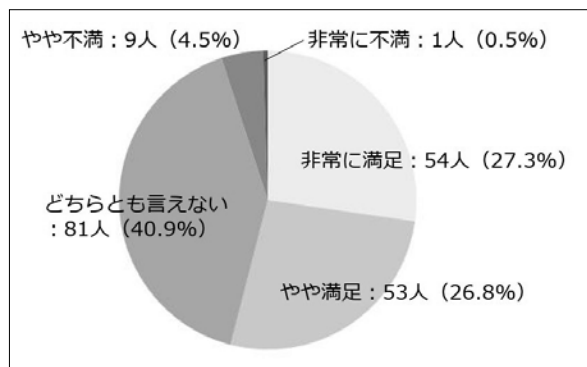


図. 9 大会エントリー資料のダウンロード (n=200)

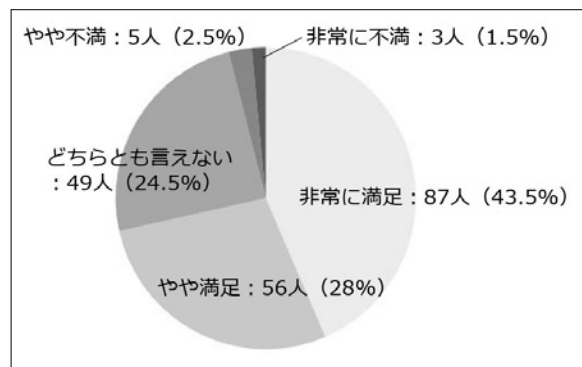


図. 10 新型コロナウイルス感染拡大予防対策の事前手続き (n=200)

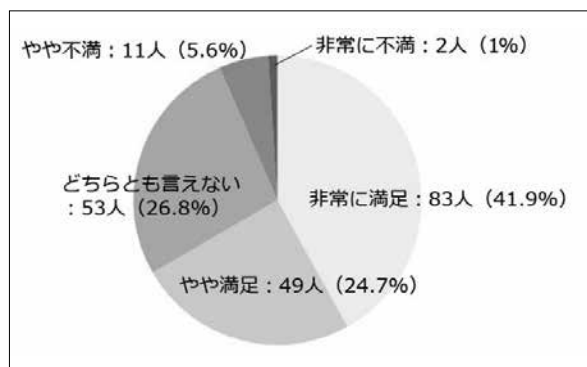


図. 11 大会期間中の新型コロナウイルス感染拡大予防対策 (n=200)

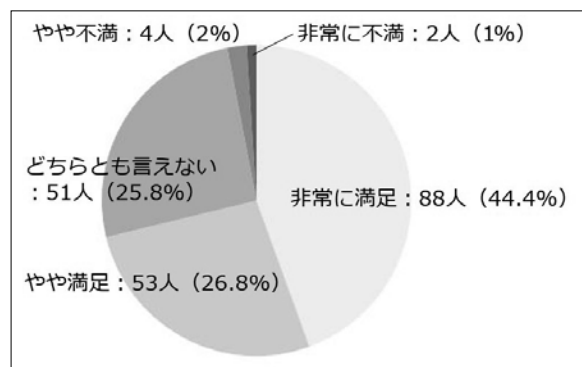


図. 12 大会期間中の新型コロナウイルス感染拡大予防対策スタッフの対応 (n=200)

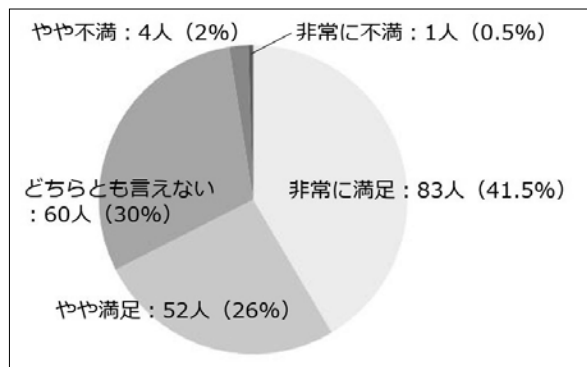


図. 13 学生エントリースタッフの対応 (n=200)

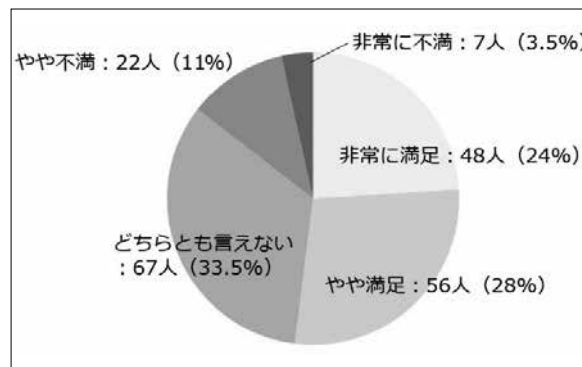


図. 14 公認審判員の判定および対応 (n=200)

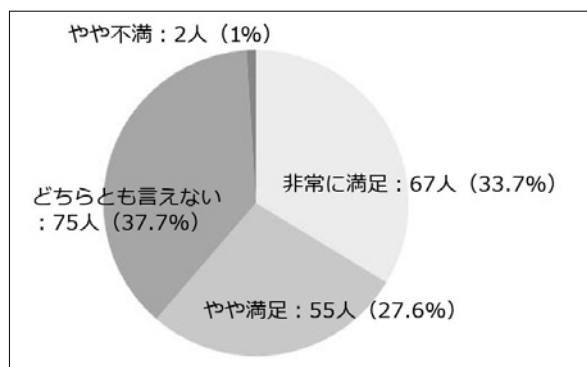


図. 15 中国大学連盟事務局の対応 (n=200)

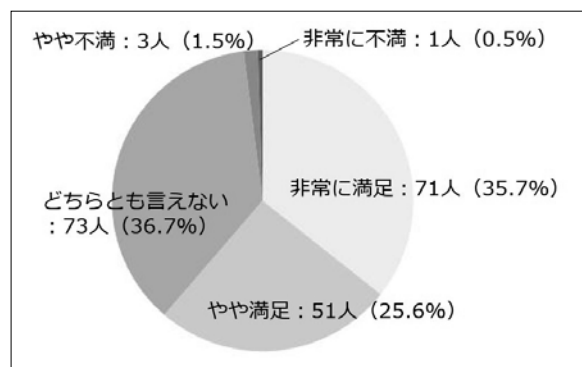


図. 16 中国大学連盟理事の対応 (n=200)

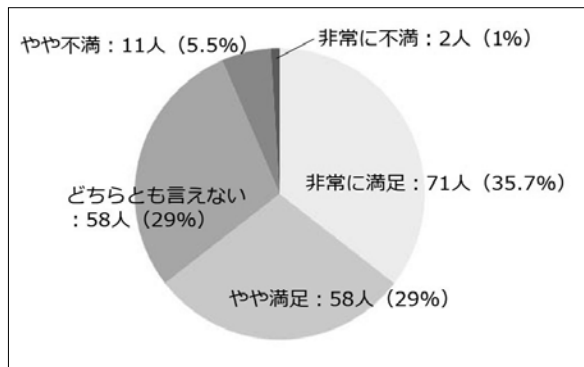


図. 17 「他者評価」自分以外の参加学生のマナー (n=200)

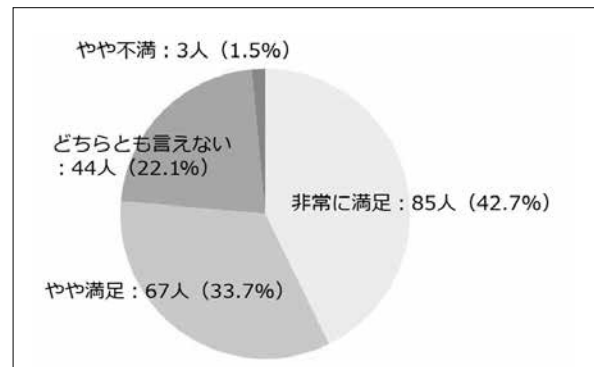


図. 18 「自己評価」自分の参加マナー (n=200)

トの意見を取り入れようとせず、コーチの考えをアスリートに押し付けようとすることでモチベーションの低下を引き起こしている」「コーチが自分の考えに固執し、アスリートを脅迫的振る舞いや言動等によって制御しようとしており、その結果アスリートのやる気を奪ってしまっている」「コーチの機嫌を伺いながら練習をしている」などといった、アスリート側の意見が報告されている<sup>12)</sup>。この報告はコーチとアスリートの関係についてのものであるが、大会運営の中核を担う連盟内でも同様な問題が起きている懸念がある。大会運営に関わる学生に対するコーチングの在り方(関わり方や育て方など)についても今後の課題としたい。

## 引用・参考文献

- 1) 山根真紀・大宮ともこ・石井智也・住田健 (2021) 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 感染拡大における学生の健康及び生活に関する調査報告. 日本福祉大学スポーツ科学論集, 第4巻: 65-73.
- 2) 江原謙介・藤本敦也・福田一儀・松永敬子・鳥山稔・河野真輝 (2021) 大学生の新型コロナウイルス感染症に対する関心についての予備的考察. スポーツ産業学研究, Vol31, No.2: 183-196.
- 3) 藤田帆乃華・佐原里加子・相馬隆景・後藤大輝・大野晃・二宮浩彰 (2021) コロナ過における
- るプロスポーツとオリンピックの観戦スタイル: スポーツ観戦に関する新聞記事のテキストマイニング. 同志社スポーツ健康科学 (13): 19-28.
- 4) 大室康平・塩入彬允 (2021) 2020年度の体育実技対面授業の実施と課題. 八戸工業大学紀要, 第40巻: 229-234.
- 5) 齋藤れい・岡亮志・棚辺舞・中田明里・阿久津哲士・手塚友葉・桑原大空 (2021) 新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった大会の大腿大会実施とスポーツ推薦の提言. スポーツ産業学研究, Vol31, No.2: 251-254.
- 6) 三上幸夫・吉川達也・川崎真嗣・指宿立・坂光徹彦 (2021) 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) を想定したパラスポーツにおける感染予防策. 臨床整形外科, Vol56, No.1: 71-77.
- 7) 吉田卓史 (2021) コロナ過における大学スポーツの活動状況に関する一考察. 福山大学経済学研究会45: 17-30.
- 8) 厚生労働省 (2020) 新型コロナウイルス感染症対策基本的対処方針.
- 9) 厚生労働省 (2020) 新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言.
- 10) 公益財団法人日本スポーツ協会 (2020) スポーツイベント再開に向けた感染拡大予防ガイドラインについて.
- 11) 公益財団法人日本バスケットボール協会 (2020) 新型コロナウイルス感染症に関するバ

スケットボール活動再開ガイドライン策定.

- 12) 伊藤雅充・富永梨紗子 (2016) 学生アスリー  
トのデリバレット・プラクティス阻害要因. 運  
動とスポーツの科学22(1) : 59-66.